

【置戸町オケクラフト】

※置戸町の基幹産業：農業・林業。生産資源の価値を高めるために生産教育推進

- 昭和 55 年（1980 年）
 - ・第 3 次置戸町社会教育 5 か年計画(1980 年～1984 年)の重点目標に「①地場資源の付加価値を高める生産教育の推進を図る」を位置づけ
 - ・公民館で木工教室開催
- 昭和 58 年（1983 年）
 - ・講演に訪れた工業デザイナー故秋岡芳夫氏から木工ロクロ導入の提案
 - ・公民館で木工ロクロの技術講座開催
 - ※木工ロクロや道具でアテ材（建築材に不向きな端材）を加工し器作成
 - ・秋岡氏がオケクラフトと命名
- 昭和 59 年（1984 年）
 - ・町内で生産に従事することを条件に研修制度開始
- 昭和 63 年（1988 年）
 - ・森林工芸館開設（教育委員会所管）し研修制度担当
- 令和 4 年（2022 年）現在
 - ・町内に 24 の工房
 - ・第 11 次置戸町社会教育 5 か年計画(2020 年～2024 年)重点目標③地域の資源を活かし、モノづくりのまちとしての姿を継承し、豊かな暮らしを創造する生産教育を推進します。
 - ・研修制度：オケクラフト作り手養成塾（2 年研修）

【長野県飯田市和紙づくりの継承】

※地区の 7 割の家で和紙をすいていたが、飯田市全体でもすけるのは小学校の卒業証書を作成する 1 軒のみ。伝統文化の継承を。

- 平成 8 年(1996 年)
 - ・飯田市下久堅（しもひさかた）公民館で、地域住民によって組織された文化委員会により和紙の里づくりプロジェクト発足
 - ・下久堅小学校も 1・2 年の生活科で取組
 - ・ひさかた和紙保存会発足
- 平成 9 年(1997 年)
 - ・下久堅公民館で和紙講座開催
 - ・下久堅郵便局で公民館の和紙はがきと記念切手を組んだ手漉き和紙セット販売→売り上げを用具等の更新に
- 平成 31 年(2019 年)
 - ・下久堅ふれあい交流館竣工（児童館、交流スペース、紙すきスペース）
- 令和 3 年(2021 年)
 - ・ひさかた和紙の会設立（ひさかた和紙保存会発展的解消）
- 令和 4 年(2022 年)現在
 - ・市内の水引店とひさかた和紙の会がコラボし商品（ポチ袋）販売
 - ・下久堅小学校の卒業証書作成継続
 - ・ひさかた和紙の会が原料栽培から紙すきまでを行い、ふれあい交流館で年間を通して和紙作り作業体験可能